

RIETI Discussion Paper Series 24-J-024

公共心の決定要因に関する実証分析 一成人時の所得水準vs.学童時の社会性獲得

久米 功一 東洋大学

鶴 光太郎 経済産業研究所

佐野 晋平 神戸大学

安井 健悟 青山学院大学



公共心の決定要因に関する実証分析 一成人時の所得水準 vs. 学童時の社会性獲得!

久米功一(東洋大学) 鶴光太郎(経済産業研究所/慶應義塾大学) 佐野晋平(神戸大学) 安井健悟(青山学院大学)

要旨

さまざまな研究によって、道徳や社会規範を含んだ広い意味での公共心が政策の選択やその効果的な実践に影響することが示されているが、公共心がどのように育まれるかについては、十分に分析されてこなかった。そこで、本研究は、公共心に影響を与える要因として、現在の所得や子供の頃の暮らし向きといった経済状況と、学校・地域での人との関わりを通じた社会性の獲得に着目した実証分析を行った。分析の結果、「貧すれば鈍する」といったような所得・暮らし向きとの関係については、公共心に対して、現在の所得との相関が弱い一方、過去の暮らし向きが有意に正に関係していた。また、小学生の頃に子ども同士で遊んだり、地域の行事に参加したりした経験は、公共心の高さと正に相関していた。これらの結果は、政府がこれまでも推進してきた子どもへの貧困対策や学校・地域で社会性の獲得につながる教育機会創出が、公共心の涵養の観点からみても重要であるとの明確なエビデンスを示しているといえる。

キーワード:公共心、学童時、所得、暮らし向き、社会性

JEL classification: D31, D83, I21, Z13

RIETI ディスカッション・ペーパーは、専門論文の形式でまとめられた研究成果を公開し、活発な 議論を喚起することを目的としています。論文に述べられている見解は執筆者個人の責任で発表す るものであり、所属する組織及び(独)経済産業研究所としての見解を示すものではありません。

¹本稿は、独立行政法人経済産業研究所(RIETI)におけるプロジェクト「AI 時代の雇用・教育改革」の成果の一部である。本稿の原案は、経済産業研究所(RIETI)のディスカッション・ペーパー検討会で発表を行ったものである。検討会参加者、深尾京司理事長、冨浦英一所長、井上誠一郎経済産業省大臣官房審議官、殷婷研究員からの有益なコメントに感謝したい。

1. はじめに

公共心 (civic virtue) や市民的協力 (civic cooperation) の機能とその重要性については、政 治制度を説明する文脈において常に強調されてきた。プラトン(紀元前 375 年頃)は『国家』にお いて、国の政治体制は市民の気質によって変わると主張し、トクヴィル(1835)は『アメリカの民 主主義』でアメリカにおける市民的自治と公共精神の重要性を考察している。パットナム(1993) は、イタリアの地方政府を分析して、市民参加に関する規範とネットワークを体現するソーシャ ル・キャピタル(Social Capital)が地域の活況の違いをもたらすことを明らかにしている²。

こうした問題意識に基づいて、公共心と経済社会との関係に関する実証研究も進められている。 Knack and Keefer (1997) は、世界価値観調査 (World Values Survey) のデータから、不正受給、 無賃乗車、脱税、遺失物横領、駐車車両への当て逃げの不申告に対する信念を用いて市民的協力を 表す信頼性(trustworthiness)の尺度を作成して、所得と教育水準が高く、平等で、民族的に均質 な国ほど、このスコアが高いことを示している。Algan and Cahuc(2009)は、世界価値観調査の 「受給資格がないのに政府に給付を要求することは正当化できるか」に対する信念を変数として、 国による労働市場の制度の違いを説明している。その結果、政府からの受給に関する道徳心が低 く、嘘をついて不正受給しても罪悪感をもたない人の比率が高い国ほど、失業給付の水準が低く、 解雇規制が強いことを実証している。

望ましい政策の選択や政策自体の質を向上させるために、国民の道徳や社会規範を含んだ広い意 味での公共心の向上が重要な役割を担うことを示す研究もある。Algan et al. (2015)は、OECD諸 国を対象として、受給資格なしで政府に給付を要求することが妥当か否か(公共心、civism)と GDP に占める公的な社会給付の割合等で代理される福祉国家の大きさの関係の二極化を分析してい る。また、理論モデルによって、公共心が低い人びとは、負担なしに給付を期待するので、大きな 政府を支持し、公共心の高い人は、信頼できる人が周囲にいる場合に限り、大きな政府を支持する ことを示している。さらに、個人レベルのパネルデータを用いて、他者への信頼、不正受給、無賃 乗車、脱税、贈賄、盗難品、ポイ捨てに対する信念で代理された公共心が、福祉国家への支持と負 の相関があることを示している。久米他(2018)は、Algan et al. (2015) を援用して、公共心と 日本の社会保障と増税の支持との関係を分析している。個人レベルのデータの分析の結果、教育年 数が短く、時間当たり所得が低い人ほど「社会保障拡大・増税なし」、教育年数が長い人ほど「社会 保障縮小・増税あり」を支持していた。また、不正受給、無賃乗車、脱税、贈賄、盗難品、ポイ捨 てに対する信念で代理された公共心が低い人ほど、「社会保障拡大・増税なし」を支持することを明 らかにしている。

これらの結果は、政府は国民からの信頼に応えるだけでなく、様々な観点で公共心を養うととも に、周りの人への信頼を高めるような施策に取り組むこと、なかでも、教育水準や教育の質の向上 が重要であることを示唆している。しかしながら、Algan et al. (2015) が言及するように、公共心

² パットナムは、人びとの協調行動を活発にして社会の効率性を高めることのできる、信頼、市民参加に関する規 範、ネットワークをソーシャル・キャピタル(社会関係資本)と名付けている。

を育むためには何が重要か、公共心の涵養に影響を与える要因は何かについては十分に分析されて こなかった。そこで、本稿では、(独)経済産業研究所が実施したアンケート調査の個票データを分 析して、公共心に影響を与える要因を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究と仮説

公共心はどのように育まれるのだろうか。本稿では、本人の所得・暮らし向きなどの状況と本人の就学時における社会的な環境(学校教育、地域など)という2つの視点から仮説を提示したい³。 第一の仮説は、「貧すれば鈍する」ということわざがあるように⁴、所得状況、暮らし向きが公共心に影響を与えるという仮説である。先行研究によると、低所得層と認識している人ほど、政府か

らの不正受給に寛容であること(Algan and Cahuc 2009)、所得の不平等は(信頼を媒介として)市 民的なエンゲージメント(政治の集会への参加、陳情、寄付)に負に相関すること(Uslaner and Brown 2005)が示されている⁵。このように、公共心に対しては、現在の所得水準に加えて、所得の 不平等の影響も加味した相対所得、さらには、現在の所得・資産環境のみならず、過去の暮らし向 きも影響する可能性があり、多様な指標に目配りする必要がある。

第二の仮説は、就学年齢において、子ども同士や先生・地域の大人との関わりなどを含め、学校、地域といった社会的環境やそこでの経験が公共心に影響を与えるというものである⁶。ここでは、学校と地域に分けで考えてみよう。

学校においては、まず、公共心を養うような教育手法に着目してみる。Algan et al. (2013)はソーシャル・キャピタルの根底にある信念は、協力の実践を通じて獲得されるという考えに基づいて、国際調査のデータを分析して⁷、教師による講義よりも生徒によるグループワークのほうが、生徒間の協力の信念、アソシエーションへの参加、政治や社会生活への参加に対して正に相関することを明らかにしている⁸。Ito et al. (2022)によると、小学校でグループ学習などの参加型教育を経験した人は、より利他的で、互恵的な考えを持ち、所得再分配政策を支持する傾向があるという⁹。教育手法という観点からは、前述のグループワークに加えて、小学校の特別活動を通じた話し合

 3 例えば、個人属性に着目した研究として、Pruyere et al. (2019) は、パーソナリティと投票、納税、遵法といった市民行動との間の正の相関を確認している。

⁴「貧乏になると生活苦に煩わされて物事の判断が鈍ったり卑しい考えに流されやすくなったりする」ということを意味する。weblio辞書「新語時事用語辞典」https://www.weblio.jp/content/貧すれば鈍する。

⁵ ただし、1990-2020 年の WVS のデータを用いて、所得水準は信頼や生活満足度に正に相関するが、公共心とは相関がないことを示した分析もある (Graafland 2023)。

⁶ 学校や地域だけでなく、家庭内における親のしつけ、教育方針・手法、親子の関係性などが子どもの公共心形成に 影響を与える可能性は否定できない。しかし、我々が使用した調査ではこうした情報についての設問はなく、明示的 に考慮しなかった。今後の分析課題としたい。

⁷Civic Education Study (CES) 25 カ国 1999 年 14 歳、the Trends in International Mathematics and Science Study (TIMSS) 1995, 2003, 2007 59 カ国、the Progress in International Reading Literacy 2006 (PIRLS 2006) ⁸なお、講義形式の場合、生徒間の協力の信念に対して負に有意であり、各種活動への参加に対しては有意な関係はみられなかった。

 $^{^9}$ ただし、Kubota et al. (2019)では、グループ学習の経験者は、利他性や互恵性を高め、将来の人間関係の満足度を高めるものの、認知スキルと負の相関をもち、所得や資産という経済的な面での満足度は低くなるため、全般的な幸福度には影響を与えていなかったことが示されている。

いが、集団の一員としての意識を高めて、実践活動が他者のよさを互いに認めて協力する態度を培 うとされている(宮田 2010)。

また、これまで述べてきた社会性を育むような教育手法のみならず、公共心育成においては、学校や学級の雰囲気なども考慮に入れる必要があろう。奥野他(2008)は、小学生の学校および学級への愛着は向社会的行動とプラスの関係をもつことを示しており、塚本(2017)は、学級構造や学級の雰囲気は、児童の向社会的行動に正に相関することを確認している。これらを踏まえると、学級崩壊の状況は、ネガティブな経験として社会性に影響すると考えられる。

このように学校の教育環境やそこでの経験が重要であることは論を待たないが、学校だけでなく、家庭や地域も含め、他者と関わることで社会性が育まれることに留意が必要である(Eisenberg 1992、Mills and Grusec 1989、奥山 2014)。とくに、社会性の獲得に当たっては、学齢の低い時期(小学校)での子ども同士のかかわりが重要である。社会性には、生まれ持った気質や親の養育が影響するが、年齢とともに友人から受ける影響が大きくなり(Harris 1995)、齋藤・杉山(2020)は小学 2, 4, 6 年生の向社会的行動を調査して、高学年になるにつれて、その主な対象が母親から友人に移っていくことを示している。また、子どもは遊びを通して、集団内でのルールや仲間であるための条件づくりを習得する(Newcomb and Bagwell 1995)

次に、地域との関わりについて、廣岡・横矢(2006)は三重県の小中高生計17317人を対象として人との関わりと規範意識の関係を分析して、保護者や先生のみならず、近所の人との関わり(大人に対するポジティブなイメージ)、学校適応感が子どもの規範意識に影響することを示している。とくに小学校では友人関係が規範意識に影響したが、中高では、必ずしも規範意識に影響していなかった。国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2004)を踏まえて、滝(2006)は、学級や学年を超えた異年齢間や地域との活動は「自己有用感」を涵養すると主張している。

以上を踏まえて、本稿では、(1) 所得や暮らし向き(貧すれば鈍する)、(2) 就学年齢での学校内外での経験が公共心に与える影響について分析する。次章で述べる変数を用いて、第一の仮説を検証する。その上で、関連変数をコントロールしても第二の仮説が成り立つかを検証する。第一の仮説が示すように、就学時の経済環境は自身ではどうにもできない部分があるかもしれないが、それをコントロールしても第二の仮説が成り立つのなら、公共心を涵養する手立てはあると考えられる。本稿の最後では、分析から導かれる公共心の涵養のための具体的な方策を検討して提案する。

3. データと変数

本稿が分析に用いるデータは、(独)経済産業研究所(RIETI)が2019年3月に実施した「全世代的な教育・訓練と認知・非認知能力に関するインターネット調査」の個票データである。この調査は、調査会社(楽天インサイト株式会社)が保有するモニターを対象とするインターネット調査で

あり、公的統計から比例的に抽出された日本国内在住の全国 25 歳 \sim 59 歳の男女計 6,000 人から回答を得ている 10 。

「公共心」の変数として、Algan and Cahuc (2015)を参照して、年金受給、無賃乗車、盗難品、脱税、賄賂、ポイ捨てに対する賛否の設問を取り上げて、これらを主成分分析して得られた合成変数を用いる。具体的な設問は以下の通りである。年金受給は、公的給付の負担と受給の関係に対する考えを表す。無賃乗車と盗難品は私的利用・所有における不法行為、脱税や賄賂は社会制度や職務における不正行為、ポイ捨ては道徳心・マナーに関する考えを表している。本稿では、政府からの受給の内容について年金受給に特定している点と、広い意味での公共心の形成に焦点を絞るために主成分分析によって総合変数を作成している点で Algan and Cahuc (2015)とは異なる¹¹。

公共心を構成する変数

年金受給 受給資格もなく年金などを要求するのは間違っている

無賃乗車 公共交通機関を無賃乗車することは間違っている

盗難品 盗難品とわかっていて買うことは間違っている

脱税 機会に乗じて脱税することは間違っている

賄賂 職務上で賄賂を受け取ることは間違っている

ポイ捨て 公共の場所へのゴミのポイ捨ては間違っている

に対して、全く当てはまらない=1~非常に当てはまる=5の5段階で評価

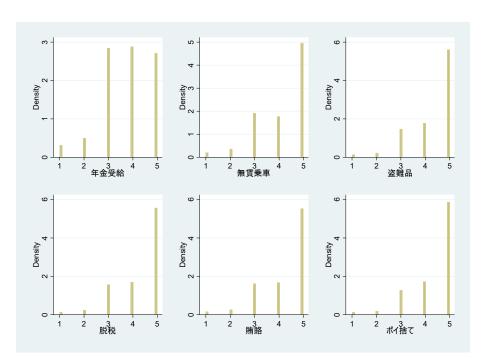
公共心の項目別では(図表 1)年金受給に関しては、「どちらともいえない」という回答も一定数あるが、その他の項目については回答者のほとんどは(不正行為は)「間違っている」に賛同している。

主成分分析の結果は補論1に示す。合成に用いる各変数は質問形式が同じなので5段階の尺度をそのまま用いて、主成分分析によって各主成分の平均0になるように基準化した。固有値と因子負荷量を踏まえて、第1主成分を公共心の総合変数として用いることとした。公共心の分布は、図表1、2の通りである。図表1でみたように、多くの人が不正な行為は間違っていると考えており、これらの特徴を反映して合成変数である公共心(図表2)は、右端に寄った分布となっている。な

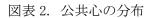
¹⁰ 平成 29 年就業構造基本調査 (総務省統計局) を元に、性別 (男女、2 区分)、年齢 (5 歳刻み、7 区分)、地域 (8 区分)、学歴 (大卒以上、大卒未満の2 区分)、就業状態 (有業、無業の2 区分) の448 セルで割り付け回収した。配信数 153,538 人、回収数9,860 人 (回収率6.4%)、有効回答数6,000 人であった。

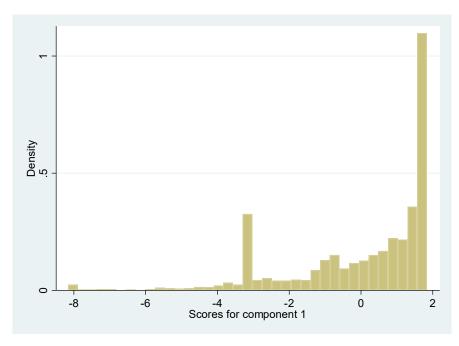
 $^{^{11}}$ なお、RIETI 調査では、政府からの給付について、以下の 4 つにパラフレーズして質問している:年金受給(受給資格もなく年金などを要求するのは間違っている)、年金未納(国民年金を納付しないことは間違っている)、生活保護(生活困難な親族(親、子ども、孫、祖父母)を養わないで生活保護を受給させることは間違っている)、雇用給付(再就職を促すために、失業手当の受給期間を短くするべきである)。本稿では、Algan and Cahuc(2015)の設問に近い「年金の受給」を取り上げたが、年金の受給と年金の未納を被説明変数とした分析は本稿と概ね同じ結果となった。

お、主成分のスコアの約-3.1 で頻度が高くなっているが、これは「どちらともいえない (=3)」と 回答した人を表している。



図表 1. 項目別の分布





次に、第一の仮説「貧すれば鈍する」の検証にあたっては、いくつかの所得の変数を用いる。まず、現在の「本人年収」(13 段階、なし~2000 万円以上、「わからない」を除く)である。厳しい経済状況にあるために、公共心が損なわれる可能性がある。また、本人の考え方や価値観は、所得の水準だけでなく、他のグループとの比較(幸福度における相対仮説)からも影響されることから、「相対所得」(年齢階層別(20~60 代の10歳)の平均所得と本人所得の差分)を説明変数に用いる。また、本人所得の変動は、配偶者の所得で補うこともできる。所得を世帯で合算する Income Pooling 仮説に基づけば、豊かさを決めるのは世帯単位の所得である可能性もある。そこで、世帯所得と相対世帯所得(所得区分と変数作成は本人所得と同じ)も分析に用いる。さらには、本人の所得階層の移動可能性(POUM 仮説)にも依存する可能性に鑑みて、過去の暮らし向き、特に、就学時代の暮らし向きに着目するために、小学校低学年(7歳)および中学3年生(15歳)の頃の「暮らし向き」(「暮らし向きはよかった」に対して、全く当てはまらない=1~非常に当てはまる=5の5段階で評価)、の変数を用いる。過去の暮らし向きは、現在の公共心に対する先決変数であるため、同時性の問題がない点に利点がある。

第二の仮説である、他者との関わりを中心とする学校や地域での社会的環境や経験に関しては、 先行研究を踏まえて、学校でのグループワーク(Algan et al. 2013、Ito et al. 2022)、学級運営 (奥野他 2008、塚本 2017)、友達との遊び(Newcomb and Bagwell 1995)、地域とのつながり(廣 岡・横矢 2006)の観点から以下の通りの変数を選んだ。具体的には、「小学校の頃を振り返って、 あなたは次のようなことをすることがどのくらいありましたか」という設問で、以下のそれぞれの 項目に対して評価した変数を用いる。

他者との関わりに関する変数

学校:

授業中にグループで教えあったり、グループで発表したりすること 学級崩壊の状態

友達:

大勢の友だちと遊ぶこと

地域:

親や学校の先生以外の大人と話をすること 地域の行事に参加すること(お祭りや子ども会など) に対して、全くなかった=1~よくあった=4の4段階で評価

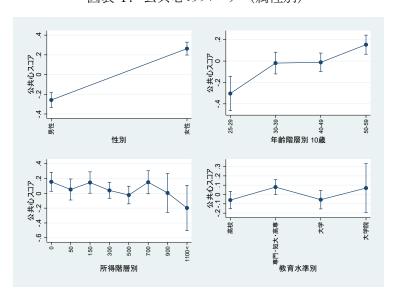
以上の手順に沿って作成された変数の記述統計量は、図表3の通りである。

図表3. 記述統計量

変数	N	mean	sd	min	max
公共心	6000	0.000	2.000	-8.2	1.8
年齢(歳)	6000	42.70	9.478	25	59
女性ダミー(女性=1、男性=0)	6000	0.495	0.500	0	1
大学卒ダミー(大学卒以上=1、それ以外=0)	6000	0.323	0.467	0	1
既婚ダミー(既婚=1、それ以外=0)	6000	0.593	0.491	0	1
子どもありダミー(子どもあり=1、子どもなし=0)	6000	0.511	0.500	0	1
単身世帯ダミー(単身世帯=1、それ以外=0)	6000	0.177	0.382	0	1
本人年収(万円)	5606	350.259	335.294	0	3000
相対所得(万円)	4367	0.000	1241.419	-2677.3	6792.5
世帯所得(万円)	5075	642.187	397.657	0	2300
相対世帯所得(万円)	5075	0.000	392.983	-768.0	1757.5
小学校の頃の暮らし向きはよかった(1~5=非常にあてはまる)	6000	3.320	1.031	1	5
中学校の頃の暮らし向きはよかった(1~5=非常にあてはまる)	6000	3.228	1.063	1	5
大勢の友だちと遊ぶこと(全くなかった=1~よくあった=4)	6000	2.950	0.853	1	4
親や学校の先生以外の大人と話をすること(全くなかった=1~よくあった=4)	6000	2.478	0.857	1	4
地域の行事に参加すること(お祭りや子ども会など)(全くなかった=1~よくあった=4)	6000	2.873	0.833	1	4
授業中にグループで教えあったり、グループで発表したりすること(全くなかった=1~よくあった=4)	6000	2.342	0.866	1	4
学級崩壊の状態(全くなかった=1~よくあった=4)	6000	1.501	0.774	1	4

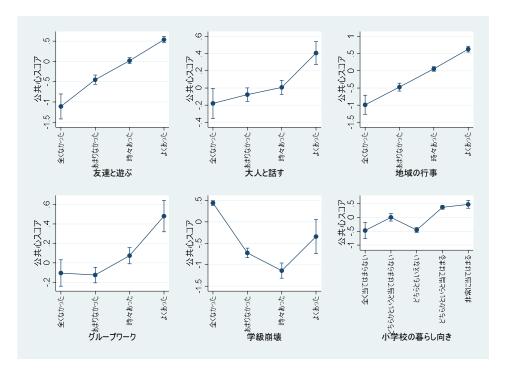
4. 推定式と推定方法

はじめに、公共心スコアと基本的な属性との関係をみてみよう。図表4の通り、女性、年齢が高いほど、公共心スコアが高く、所得階層が高いほど公共心スコアは(有意ではないが)緩やかに低下し、教育水準とは明確な関係がなかった¹²。図表5には、子どもの頃の過ごし方と現在の公共心スコアとの関係が図示されている。友達との遊び、大人や地域とのかかわり、グループワークがあるほど、小学校の暮らし向きがよいほど、公共心のスコアが高い。これらの観察を踏まえて、次節では、個人属性をコントロールした上で、これらの関係が成り立つのかを検証する。



図表4. 公共心のスコア (属性別)

¹² 公共心とパーソナリティや経済選好との関係は、補論 2 の通りである。ビッグファイブとの相関をみると、公共心は協調性と正の相関を持つ一方、情緒安定性や開放性とは負に相関していた。ダークトライアドの各要素とは一貫して負の相関があった。また、公共心は、保有効果や同調効果と正の相関を持つが、正の互酬性とは正、負の互酬性とは負の相関をもっていた。これらの結果は、公共心は、パーソナリティや経済選好の一部と同様の傾向を示しつつも、異なる性向を代理する変数であることを示唆している。



図表 5. 公共心のスコア (学校・地域・暮らし向き)

はじめに、第一の仮説「貧すれば鈍する」を検証するために、公共心を被説明変数とし、経済状況を説明変数とする(1)式を最小二乗法で推定する。経済状況の変数は、具体的には、本人年収、相対所得、世帯所得、相対世帯所得、小学校の頃の暮らし向き、中学校の頃の暮らし向きである。

公共心 =
$$\beta$$
経済状況 + γX + u (1)

Xはコントロール変数で、年齢、女性ダミー、大学卒ダミー、既婚ダミー、子どもありダミー、単身世帯ダミー、47 都道府県ダミー、12 職種ダミー、20 業種ダミーを用いる。 uは誤差項である。次に、第二の仮説「就学年齢での環境・経験が公共心に影響を与える」について検証する。ここでは、(1) 式の推定における本人所得や子どもの頃の暮らし向きをコントロール変数として、友達付き合いや地域の行事との関わり、グループ学習や学級の状態に関する変数(人との関わり)を説明変数とする(2) 式を最小二乗法で推定する。

公共心 =
$$\beta$$
経済状況 + δ 人との関わり + γX + u (2)

5. 推定結果

5.1 「貧すれば鈍する」

(1) 式の推定結果は図表6の通りである。まず、個人属性では、年齢が高く¹³、女性ほど、公共心スコアが高い。これは図表4で見た通りである。既婚者ほど、公共心スコアが高い。大学卒ダミーの係数は有意ではなく、学歴と公共心には有意な関係がみられない。所得変数をみると、相対所得の係数は有意に正であるが、本人年収、世帯所得、相対世帯所得は有意ではなかった。子どもの頃の暮らし向きの係数は、小学校も中学校もいずれも正で有意であった。現在の所得と子どもの頃の暮らし向きの変数を同時に用いた結果をみると、相対所得の係数は有意でなくなり、子どもの頃の暮らし向きが公共心スコアに有意に正に関係していた。この結果は、「貧すれば鈍する」仮説に関しては、現在の所得ではなく、子どもの頃の暮らし向きにおいて成り立つといえる。

5.2 就学時における学校や地域における他人との関わり

図表7に(2)式の推定結果を示す。小学校の頃の過ごし方に着目すると、「大勢の友達と遊ぶ」、「親や学校の先生以外の大人と話をする」、「地域の行事に参加する(お祭りや子ども会など)」、「授業中にグループで教え合ったり発表したりする」は、公共心スコアと有意に正に関係している一方、「学級崩壊の状態」は有意に負であった。これらの変数を同時に説明変数に用いた場合、公共心スコアに対して「大勢の友達と遊ぶ」、「地域の行事に参加する(お祭りや子ども会など)」は有意に正、「学級崩壊の状態」は有意に負であった¹⁴¹⁵。子どもの頃の暮らし向き(小学校)と本人年収でコントロールしたところ、暮らし向きは一貫して正で有意であり、人との関わりに関する変数の係数の符号や統計的有意性には変化がなかった。これらの結果は、子ども同士の遊びや地域の行事への参加によって社会性を身につけることで、公共心を涵養し得ることを示している¹⁶。

_

¹³ 年齢が高くなるほど公共心が高くなるという関係は社会経験の蓄積によって公共心が涵養されることを反映していると考えられる一方、年齢別コホートに異なるショック(例えば、教育課程の違い)が反映されている可能性も否定できない。しかしながら、同じデータセットを使った、久米他(2023)の分析によれば、非認知能力のいくつかは想定されうるコホートの影響をコントロールしてもなお、年齢を重ねることで高まることを確認しており、公共心についても同様のことが成り立つ蓋然性は高いといえる。

^{14 「}親や学校の先生以外の大人と話をする」は符号が逆転して負で有意になり、「授業中にグループで教え合ったり発表したりする」の係数が正だが有意ではなくなった。VIF 値は平均 1.26、個々の変数でも最大 2.56 であり、多重共線性はみられなかった。

 $^{^{15}}$ 「大人と話す」の変数が推定パターンによって係数の符号が異なり、その効果が安定的でないことについては、「大人と話す」ことの影響が子ども時代の居住環境によっても異なる可能性が考えられる。そこで、まず、現在の居住地ではなく、「 12 歳時点での居住地ダミー変数」をコントロール変数として用いると、推定結果に大きな違いはなかった。その上で、当時の居住地域毎にみた「大人と話す」ことの効果をみるため、「大人と話す」と「 12 歳時点での居住地ダミー変数」との交差項を含めたところ、「大人と話す」単独の係数は有意でなくなり、交差項の係数はプラスになる地域とマイナスになる地域があった。「大人と話す」ことの公共心に対する影響は、公共心単独の変数の係数と、公共心と地域ダミー変数の交差項の係数の総和であることに鑑みると、「大人と話す」変数の公共心に対する影響は特に地域差が大きく、正にも負にもなりうる、つまり、どのような環境の下で大人と話したかに依存する可能性を示唆している。

¹⁶ 同様の分析を、中学校の頃の過ごし方で分析した結果が、補論3である。公共心スコアに対して、「大勢の友達と遊ぶ」の係数は正、学級崩壊は負で有意であるが、小学校と違って「地域の行事への参加」は有意に負になっていた。15 歳時点での暮らし向きは、どの特定化においても公共心に対して有意に正であった。小学生の頃に比べると(付表2)、友との関わりからaの影響強い一方、地域との関わりがもたらす公共心への影響が弱いことがわかる。

図表 6. 公共心の決定要因① ベース (地域・職種・業種コントロール)

凶衣 0. 公共心仍依是	安凶U	~~~	(地域)	" 引取7里 "	未性ー	/ r u	$-)\nu)$								
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)
VARIABLES	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心
← thA	0.0400444	0.0404444	0.04.05+++	0.04.04.04	0.04.07***	0.0477444	0.0457444	0.0470+++	0.0000444	0.04.05***	0.04.00***	0.0457444	0.0404***	0.04.40***	0.0450+++
年齢		_	0.0165***	_	_			_	_	_	_	_	_	_	
	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)		(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)		(0.003)
女性ダミー		0.5147***			0.5047***		0.5163***			0.4681***	0.4650***			3) (0.003) *** 0.4898*** 7) (0.062) 54 -0.0179 8) (0.064) 57 0.1384* 4) (0.080) 78 -0.0215 6) (0.069) 21 -0.0543 1) (0.087) 00 0 0 0.0001	
	(0.059)	(0.063)	(0.068)	(0.062)	(0.063)	(0.058)	(0.058)	(0.062)	(0.067)	(0.062)	(0.062)	(0.062)	(0.067)	_ ` ′	(0.063)
大学卒ダミー	0.0706	0.0617	0.0862	0.0232	0.0252	0.0022	0.0076	0.0034	0.0287	-0.0234	-0.0217	0.0067	0.0354	_	-0.0162
	(0.059)	(0.061)	(0.068)	(0.064)	(0.064)	(0.059)	(0.059)	(0.061)	(0.068)	(0.063)	(0.063)	(0.061)	(0.068)	. ,	(0.064)
既婚ダミー	0.1861**	0.1745**	0.1362	0.1398*	0.1423*	0.1871***	0.1770**	0.1733**	0.1422*	0.1419*	0.1443*	0.1662**	0.1357	_	0.1408*
	(0.073)	(0.074)	(0.085)	(0.081)	(0.081)	(0.072)	(0.072)	(0.074)	(0.084)	(0.080)	(0.080)	(0.074)	(0.084)		(0.080)
子どもありダミー	-0.0226	-0.0034	-0.0483	-0.0134	-0.0133	-0.0422	-0.0332	-0.0174	-0.0615	-0.0253	-0.0253	-0.0116	-0.0578	_	-0.0215
	(0.066)	(0.067)	(0.076)	(0.070)	(0.070)	(0.065)	(0.065)	(0.066)	(0.076)	(0.069)	(0.069)	(0.066)	(0.076)	(0.069)	(0.069)
単身世帯ダミー	-0.0836	-0.0914	-0.1161	-0.0622	-0.0645	-0.0422	-0.0565	-0.0549	-0.0771	-0.0460	-0.0483	-0.0674	-0.0921	-0.0543	-0.0566
	(0.080)	(0.082)	(0.091)	(0.087)	(0.087)	(0.080)	(0.080)	(0.081)	(0.090)	(0.086)	(0.086)	(0.081)	(0.091)	(0.087)	(0.087)
本人年収		0.0000						-0.0000				-0.0000			
		(0.000)						(0.000)				(0.000)			
相対所得			0.0000*						0.0000				0.0000		
			(0.000)						(0.000)				(0.000)		
世帯所得				0.0001						0.0001				0.0001	
				(0.000)						(0.000)				(0.000)	
相対世帯所得					0.0001						0.0000				0.0001
					(0.000)						(0.000)				(0.000)
1.暮らし向きはよかった(小学校)						0.2740***		0.2434***	0.2393***	0.2260***	0.2264***				
						(0.025)		(0.025)	(0.029)	(0.027)	(0.027)				
1.暮らし向きはよかった(中学校)							0.2188***					0.1947***	0.1877***	0.1704***	0.1708***
							(0.024)					(0.025)	(0.028)	(0.026)	(0.026)
Constant	-0.9955***	-0.8517***	-1.1141***	-0.8479***	-0.7930***			-1.8063***	-2.0649***	-1.7109***	-1.6852***	-1.5610***	-1.8072***	-1.4537***	-1.4221***
	(0.160)	(0.163)	(0.201)	(0.174)	(0.172)	(0.187)	(0.182)	(0.190)	(0.230)	(0.201)	(0.201)	(0.185)	(0.225)	(0.196)	(0.196)
都道府県ダミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
職種ダミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
業種ダミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Observations	6,000	5,606	4,367	5,075	5,075	6,000	6,000	5,606	4,367	5,075	5,075	5,606	4,367	5,075	5,075
R-squared	0.045	0.047	0.049	0.047	0.047	0.064	0.058	0.063	0.064	0.061	0.061	0.058	0.059	0.055	0.055
Standard errors in parentheses															
*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1															

図表 7. 公共心の決定要因② 小学校の過ごし方(地域・職種・業種コントロール)

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)
VARIABLES	公共心																	
年齢	0.0145***	0.0134***	0.0171***	0.0144***	0.0068**	0.0109***	0.0179***	0.0178***	0.0205***	0.0186***	0.0111***	0.0136***	0.0183***	0.0178***	0.0206***	0.0185***	0.0112***	0.0140***
	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)
女性ダミー	0.5452***	0.5180***	0.4091***	0.5067***	0.5288***	0.4569***	0.5095***	0.4824***	0.3827***	0.4720***	0.4883***	0.4376***	0.4705***	0.4516***	0.3545***	0.4441***	0.4526***	0.3954***
	(0.057)	(0.059)	(0.058)	(0.059)	(0.057)	(0.056)	(0.057)	(0.059)	(0.058)	(0.059)	(0.056)	(0.056)	(0.061)	(0.063)	(0.062)	(0.063)	(0.060)	(0.060)
大学卒ダミー	0.0876	0.0717	0.0903	0.0578	0.0881	0.1100**	0.0353	0.0057	0.0351	-0.0043	0.0288	0.0684	0.0444	0.0089	0.0438	-0.0025	0.0295	0.078
	(0.058)	(0.059)	(0.058)	(0.059)	(0.057)	-0.056	(0.058)	(0.059)	(0.058)	(0.059)	(0.057)	(0.056)	(0.060)	(0.061)	(0.060)	(0.061)	(0.059)	(0.058)
既婚ダミー	0.1171*	0.1692**	0.1277*	0.1725**	0.1986***	0.1242*	0.1239*	0.1768**	0.1332*	0.1776**	0.1990***	0.1317*	0.1234*	0.1631**	0.1234*	0.1630**	0.1997***	0.1419**
	(0.071)	(0.073)	(0.071)	(0.073)	(0.070)	(0.068)	(0.071)	(0.072)	(0.071)	(0.072)	(0.070)	(0.068)	(0.073)	(0.074)	(0.073)	(0.074)	(0.072)	(0.070)
子どもありダミー	-0.0849	-0.0308	-0.0852	-0.0273	-0.0123	-0.0718	-0.0940	-0.0464	-0.0954	-0.0448	-0.0296	-0.0978	-0.0691	-0.0214	-0.0712	-0.0199	-0.0140	-0.0825
	(0.064)	(0.066)	(0.064)	(0.066)	(0.063)	-0.062	(0.064)	(0.065)	(0.064)	(0.065)	(0.063)	(0.061)	(0.065)	(0.066)	(0.065)	(0.066)	(0.064)	(0.063)
単身世帯ダミー	-0.0624	-0.0895	-0.0946	-0.0815	-0.0822	-0.0718	-0.0335	-0.0475	-0.0613	-0.0422	-0.0468	-0.0469	-0.0379	-0.0600	-0.0725	-0.0553	-0.0565	-0.0518
	(0.078)	(0.080)	(0.079)	(0.080)	(0.077)	(0.075)	(0.078)	(0.080)	(0.078)	(0.080)	(0.077)	(0.075)	(0.080)	(0.081)	(0.080)	(0.081)	(0.079)	(0.077)
7.大勢の友だちと遊ぶこと	0.5064***					0.3317***	0.4620***					0.3119***	0.4308***					0.282***
	(0.030)					(0.034)	(0.030)					(0.034)	(0.031)					(0.035)
8.親や学校の先生以外の大人と話を		0.1316***				-0.0916***		0.0794***				-0.1109***		0.0809***				-0.1003***
すること		(0.030)				(0.033)		(0.030)				(0.033)		(0.031)				(0.033)
9.地域の行事に参加すること (お祭			0.5102***			0.3460***			0.4686***			0.3375***			0.4538***			0.3353***
りや子ども会など)			(0.031)			(0.036)			(0.031)			(0.036)			(0.032)			(0.037)
13.授業中にグループで教えあった				0.1275***		0.0026				0.0880***		-0.0078				0.0850***		-0.0119
り、グループで発表したりすること				(0.030)		(0.032)				(0.030)		(0.032)				(0.031)		(0.032)
14.学級崩壊の状態					-0.6735***	-0.6137***					-0.6496***	-0.5962***					-0.6113***	-0.5578***
					(0.032)	-0.032					(0.032)	-0.032					(0.033)	(0.033)
1.暮らし向きはよかった(小学校)							0.2036***	0.2628***	0.2146***	0.2646***	0.2352***	0.1645***	0.1806***	0.2324***	0.1891***	0.2346***	0.2071***	0.1440***
							(0.025)	(0.026)	(0.025)	(0.025)	(0.024)	(0.024)	(0.025)	(0.026)	(0.025)	(0.026)	(0.025)	(0.025)
本人年収													-0.0001	-0.0000	-0.0000	-0.0000	-0.0001	-0.0001
													(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)
Constant	-2.4700***	-1.3099***	-2.4497***	-1.3185***	0.2971*	-1.5574***	-3.1380***	-2.2142***	-3.1712***	-2.2546***	-0.6698***	-2.0806***	-2.8338***	-1.9582***	-2.8997***	-1.9888***	-0.4975**	-1.8787***
	(0.179)	(0.175)	(0.179)	(0.177)	(0.166)	(0.193)	(0.196)	(0.195)	(0.197)	(0.197)	(0.193)	(0.208)	(0.200)	(0.198)	(0.201)	(0.201)	(0.197)	(0.214)
都道府県ダミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
職種ダミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
業種ダミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Observations	6,000	6.000	6.000	6.000	6.000	6.000	6.000	6.000	6.000	6.000	6.000	6.000	5.606	5,606	5.606	5.606	5.606	5,606
R-squared	0.090	0.048	0.088	0.048	0.111	0.163	0.100	0.065	0.099	0.065	0.125	0.168	0.095	0.064	0.097	0.064	0.118	0.156
Standard errors in parentheses										5,555								
*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1																		

6. まとめと政策的なインプリケーション

本稿では、道徳や社会規範を含んだ広い意味での公共心の決定要因について、成人時の所得水準と学童時の学校や地域における社会性の獲得機会に着目した分析を行った。本稿が提示した仮説の検証の結果から、仮説 1「貧すれば鈍する」は過去の暮らし向きにおいてのみ成り立つ一方、仮説 2「就学時における学校や地域における他人との関わりと社会性の獲得」については幅広い指標について成り立つことが確認された。これは、言い換えると、公共心は成人以降の典型的なアウトカムである、所得水準や教育水準(学歴)よりも、就学時における家庭の暮らし向きや学校、地域における他者との関わりが重要であり、就学時でも幼少期における学校や環境や経験が公共心と密接な関係があることを示唆している。

「貧すれば鈍する」ことがあるとすれば、幼少期の暮らし向きがポイントとなる、つまり、子どもの貧困は、成人後の公共心に悪影響を与えうるという履歴効果を考慮すると、 貧困対策の中でも、子どもの貧困対策は優先度が高いといえるかもしれない。

また、幼少期においては、学力にみられる認知能力の向上だけでなく、公共心涵養という教育施策の観点から、学校、地域、両方の環境下で、子ども同士や子どもと大人の関わりをもつ機会をもち、質量ともに充実させていくことも重要であるといえる。

以上の観点から、政策的なインプリケーションについて考える。まず、子どもの暮らし向きへの支援については、こども家庭庁の子どもの貧困対策が挙げられる。地域こどもの生活支援強化事業では、食事(こども食堂等)や体験(学習機会、遊び体験)の提供などが実施されているが、居場所につながらないこども・若者がいたり、運営スタッフの確保、人材育成、運営費用、経営の安定性が課題となったりしている「で、とくに、学校との連携やコーディネーター人材の不足が指摘されている(内閣官房こども家庭庁設立準備室2023)。「こどもの居場所づくりに関する指針」(令和5年12月22日閣議決定)にもとづいて着手された「こどもの居場所づくり支援体制強化事業」では、こどもの居場所づくりコーディネーターの配置等の支援やモデル事業を通した効果的な支援方法等の検証が行われることとなった。子どもが安心して過ごすことができる場の整備によって、子どもの貧困の解消、地域・大人と子ども、あるいは、子ども同士の関わり合いが高まり、本稿が指摘した、子ども自身の公共心が涵養されることが期待される。

教育の面では、文部科学省は、教育振興基本計画(令和5年度~9年度)のコンセプトの一つとして、日本社会に根差したウェルビーイングの向上を掲げている¹⁸。その基本的

¹⁷ 内閣官房こども家庭庁設立準備室(2023)「こどもの居場所づくりに関する調査研究報告書」令和 5 年 3 月 調査研究実施機関:みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社

¹⁸ 教育振興基本計画は、教育基本法(平成 18 年法律第 120 号)に示された理念の実現と、我が国の教育

な方針の3番目の「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」は、 本稿の分析が明らかにした、就学時における学校や地域における他人との関わりによる社 会性の獲得と合致している¹⁹。

その施策として、地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員等のコーディネーターの育成や、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進などが挙げられている²⁰。学校教員や地域住民が社会教育の充実による地域の教育力の向上や地域コミュニティの基盤強化に向けた活動に参画できるようにするために、現状の働き方を変えていく必要もあるだろう。

また、本稿が指摘したグループ学習の有効性については、教育振興基本計画において「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」として取り上げられている。「協働的な学び」とは²¹、探究的な学習や体験活動などを通じ、子ども同士で、あるいは地域の人びとをはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成することを指す。様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感を持つことができる(平成28年答申)ことが期待されている。

以上、本稿は、子ども家庭庁の子どもへの貧困対策、文科省が目指す地域や家庭で共に 学び支え合う社会の実現や協同的な学びの推進、といった政府が推進する様々な政策は、 公共心の涵養の観点からみても重要であるとの明確なエビデンスを示しているといえる。 また、公共心の涵養は、久米他(2018)に示されているように、長期的には国民の社会保 障・税のあり方に対する選好に影響を与え、財政健全化に資することも期待できよう²²。

振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、同法第 17 条第 1 項に基づき政府として策定する計画である。

¹⁹ 本稿の議論は、教育振興基本計画に掲げられた「今後5年間の教育政策の目標と基本施策」のうち、目標2 (豊かな心の育成)、目標6 (主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成)、目標9 (学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上)、目標10 (地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進) に関係する。とくに、目標6は、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度、規範意識、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度などを養うとして、「主権者教育の推進」を掲げている。また、目標の進捗を把握するための【指標】として「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合の増加」「これまでの学習を通じて身に付けた知識・技能や経験を①家庭・日常の生活に生かしている者の割合の向上、②地域や社会での活動に生かしている者の割合の向上」などがある。

²⁰ コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)とは、地域住民や保護者などからなる学校運営協議会を設置した学校をいい、学校と地域住民などが力を合わせ、子どもたちのより良い環境づくりに取り組む「地域とともにある学校」を目指すための仕組みを指す。

²¹ 「協働的な学び」の定義は、令和3年答申教育課程部会における審議のまとめ、および、「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」に基づく。 ²² この点に関しては、文科省「教育振興基本計画」(53頁)の目標6「主体的に社会の形成に参画する態

参考文献

- Aghion, Philippe., Algan, Yann., and Cahuc, Pierre. (2011) Civil Society and the State: The Interplay between Cooperation and Minimum Wage Regulation, Journal of the European Economic Association, Volume 9, Issue 1, 1 February 2011, Pages 3-42, https://doi.org/10.1111/j.1542-4774.2010.01004.x
- Algan, Y. and Cahuc, P (2009) Civic Virtue and Labor Market Institutions,
 American Economic Journal: Macroeconomics, VOL. 1, NO. 1, January 2009 (pp. 111-45)
- Algan, Yann, Pierre Cahuc, and Andrei Shleifer. 2013. "Teaching Practices and Social Capital." American Economic Journal: Applied Economics, 5 (3): 189-210.
- Algan, Y., P. Cahuc, and M. Sangnier (2015), "Trust and the Welfare State: The Twin Peaks Curve," Economic Journal, 126, 861-883
- Corneo, G. and Gruner, H.P. (2002). 'Individual preferences for political redistribution', Journal of Public Economics, vol. 83(1), pp. 83-107.
- Eisenberg, Nancy, 1992, The Caring Child, Cambridge: Harvard University Press Graafland, J. (2023) On Rule of Law, Civic Virtues, Trust, and Happiness. Applied Research Quality Life 18, 1799–1824
- Harris, J.R. 1995 Where is the child's environment? A group socialization theory of development. Psychological Review, 102, 458-489.
- Ito, T., Kubota, K. & Ohtake, F. Long-term consequences of the hidden curriculum on social preferences. JER 73, 269-297 (2022). https://doi.org/10.1007/s42973-019-00033-8
- Kubota, K., Ito, T. & Ohtake, F. Long-term consequences of group work in Japanese public elementary schools, Japan and the World Economy, Volume 52, 2019, 100980,
- Mills, Rosemary S. L. and Joan E. Grusec, 1989, "Cognitive, Affective, Behavioral Consequences of Praising Altruism," Merrill Palmer Quarterly, 35: 299-326.

度の育成・規範意識の醸成」に、「主権者教育の推進 ・平和で民主的な国家・社会の形成に主体的に参画する主権者として、社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一員として主体的に担うことができる力を発達の段階等に応じて身に付けさせるため、地域課題に関する学習、租税や財政の学習、法に関する学習などについて、関係府省が連携し、小・中・高等学校等における学習指導要領に基づく指導の充実、大学等における周知啓発などの取組を推進するとともに、学校・家庭・地域の連携による取組の充実を促す。」と掲げられている。

- Newcomb, A. F. & Bagwell, C. L. 1995 Children's friendship relations: A metaanalytic review. Psychological Bulletin, 117, 306-347.
- Pruysers, Scott., Julie Blais and Phillip G. Chen (2019) Who makes a good citizen? The role of personality Personality and Individual Differences 146 (2019) 99-104
- Stephen Knack and Philip Keefer (1997) Does Social Capital Have an Economic Payoff? A Cross-Country Investigation, The Quarterly Journal of Economics, Vol. 112, No. 4 (Nov., 1997), pp. 1251-1288
- Uslaner and Brown (2005) Inequality, Trust, and Civic Engagement, American Politics Research, Vol. 33 No. 6, November 2005 868-894
- 奥野誠一・藤本昌樹・鎌倉利光・糸井尚子(2008)小学生の向社会的行動と学校愛着および学級愛着との関連 小児保健研究 第67巻 第3号 518-524 https://www.jschild.med
 - all.net/Contents/private/cx3child/2008/006703/012/0518-0524.pdf)
- 奥山尚子(2014)「向社会性に関する規範意識の形成とその影響」『家計経済研究』 102.57-70.
- 久米功一・鶴光太郎・佐野晋平・安井健悟 (2018)「社会保障の給付負担に対する選択を 決定する要因は何か―個人の意識の役割」『行動経済学』11、pp. 54-74.
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2004)『「社会性の基礎」を育む「交流活動」・「体験活動」―「人とかかわる喜び」をもつ児童生徒に―』(2004年)文部科学省委託研究報告書 https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/syakaisei.pdf
- 齋藤信・杉山佳菜子 (2020) 小学生がおこなう向社会的行動—向社会的行動の対象と種類に関する自由記述の予備的検討— 鈴鹿大学教職教育センター紀要 第三号 pp. 41-47 https://www.suzuka.ac.jp/wp-content/uploads/2020/03/11kiyou_saito-1.pdf
- 滝充(2006)「異学年交流」「地域交流」こそ育成の要諦ー徹したい教師の「学習支援」 『CS 研レポート』Vol. 58. 26-31. https://www.nier.go.jp/a000110/Syakaisei2.pdf 塚本伸一(2017)「教師の指導態度、学級集団構造、学級雰囲気が児童の向社会的行動に 及ぼす影響」立教大学キリスト教教育研究所紀要 34 巻 21-36.
- 内閣官房こども家庭庁設立準備室 (2023)「こどもの居場所づくりに関する調査研究報告書」令和5年3月 調査研究実施機関:みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 廣岡秀一・横矢祥代 (2006)「小学生・中学生・高校生の規範意識と関連する要因の分析」『三重大学教育学部研究紀要』第57巻 教育科学 111-120.

宮田延実(2010)「特別活動を通して育成する社会性についての検討一小学生の「社会的な資質」を育成するモデル化の試み」日本特別活動学会紀要第8号72-80.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/tokkatsu/18/0/18_72/_pdf 文部科学省「教育振興基本計画」

https://www.mext.go.jp/content/20230615-mxt_soseisk02-100000597_01.pdf
https://www.mext.go.jp/content/20230615-mxt_soseisk02-100000597_02.pdf
山村英司 (2019)「所得再分配選好の形成分析の展開と展望:反グローバル化時代における格差と人々の意識」依田高典・岡田克彦編著『行動経済学の現在と未来』第13章

補論1. 公共心の合成変数

	固有値	差分	割合	累積
第1主成分	4.001	3.214	0.667	0.667
第2主成分	0.788	0.329	0.131	0.798
第3主成分	0.459	0.175	0.076	0.875
第4主成分	0.283	0.016	0.047	0.922
第5主成分	0.268	0.066	0.045	0.966
第6主成分	0.201 .		0.034	1.000

変数	第1主成分	第2主成分	第3主成分	第4主成分	第5主成分	第6主成分
年金受給	0.2684	0.9342	-0.2251	-0.0563	-0.0223	0.0296
無賃乗車	0.3927	0.1101	0.8868	0.0838	0.1997	0.0183
盗難品	0.4401	-0.1538	0.0192	-0.0773	-0.8534	0.2191
脱税	0.4465	-0.1662	-0.1434	-0.4787	0.117	-0.7139
賄賂	0.4397	-0.2147	-0.2557	-0.2851	0.4501	0.6413
ポイ捨て	0.4329	-0.1332	-0.2767	0.8206	0.1223	-0.1729

alpha 年金受給 無賃乗車 盗難品 脱税 賄賂 ポイ捨て

Test scale = mean(unstandardized items)

Average interitem covariance: .5500696

Number of items in the scale: 6

Scale reliability coefficient: 0.8910

補論2. 公共心の合成変数

	公共心
外向性	-0.0204
協調性	0.2214 *
勤勉性	0.0104
情緒安定性	-0.0313 *
開放性	-0.0456 *
グリット	0.0927 *
自尊感情	0.0083
統制の所在	0.1047 *
マキャベリニズム	-0.238 *
サイコパシー	-0.1733 *
ナルシシズム	-0.1177 *

^{*} p<0.05

補論 3. 公共心の決定要因③ 中学校の過ごし方(地域・職種・業種コントロール)

		, 1 1	V 1/10		(20/3/	1901	八十五			/								
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)
VARIABLES	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心	公共心
年齢	0.0137***	0.0134***		0.0132***						0.0157***		0.0121***		0.0159***	0.0154***		0.0122***	
	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)	(0.003)
女性ダミー	0.5676***	0.5349***	0.5457***	0.5375***	0.5463***	0.5698***	0.5378***	0.5125***	0.5204***	0.5170***	0.5220***	0.5505***	0.5024***	0.4823***	0.4900***	0.4891***	0.4870***	0.5083***
	(0.059)	(0.059)	(0.059)	(0.059)	(0.058)	(0.058)	(0.059)	(0.059)	(0.059)	(0.059)	(0.057)	(0.058)	(0.062)	(0.063)	(0.062)	(0.063)	(0.061)	(0.062)
大学卒ダミー	0.0745	0.0673	0.0701	0.0668	0.0941	0.088*	0.0164	0.0071	0.0044	0.0080	0.0380	0.0393	0.0198	0.0071	0.0029	0.0080	0.0366	0.0450
	(0.059)	(0.059)	(0.059)	(0.060)	(0.058)	(0.058)	(0.059)	(0.059)	(0.059)	(0.059)	(0.058)	(0.058)	(0.061)	(0.061)	(0.061)	(0.061)	(0.060)	(0.060)
既婚ダミー	0.1488**	0.1765**	0.1893***	0.1836**	0.1765**	0.1403*	0.1478**	0.1726**	0.1854**	0.1773**	0.1689**	0.1416*	0.1408*	0.1626**	0.1742**	0.1672**	0.1638**	0.1421*
	(0.073)	(0.073)	(0.073)	(0.073)	(0.071)	(0.071)	(0.072)	(0.072)	(0.072)	(0.072)	(0.071)	(0.071)	(0.074)	(0.074)	(0.074)	(0.074)	(0.073)	(0.072)
子どもありダミー	-0.0398	-0.0256	-0.0215	-0.0236	0.0061	-0.0825	-0.0461	-0.0344	-0.0305	-0.0331	-0.0044	-0.1729	-0.0250	-0.0126	-0.0093	-0.0112	0.0156	0.0014
	(0.066)	(0.066)	(0.066)	(0.066)	(0.065)	(0.078)	(0.065)	(0.065)	(0.065)	(0.065)	(0.064)	(0.064)	(0.066)	(0.066)	(0.066)	(0.066)	(0.065)	(0.065)
単身世帯ダミー	-0.0872	-0.0867	-0.0823	-0.0832	-0.0835	-0.0826	-0.0618	-0.0584	-0.0524	-0.0565	-0.0598	-0.0600	-0.0725	-0.0690	-0.0635	-0.0675	-0.0688	-0.0692
	(0.080)	(0.080)	(0.080)	(0.080)	(0.079)	(0.078)	(0.080)	(0.080)	(0.080)	(0.080)	(0.078)	(0.078)	(0.081)	(0.081)	(0.081)	(0.081)	(0.080)	(0.079)
7.大勢の友だちと遊ぶこと	0.1898***					0.2230***	0.1526***					0.2039***	0.1420***					0.1882***
	(0.029)					(0.034)	(0.030)					(0.034)	(0.030)					(0.035)
8.親や学校の先生以外の大人と話を		0.0717**				0.0708		0.0338				0.0543		0.0279				0.0500
すること		(0.031)				(0.037)		(0.031)				(0.037)		(0.031)				(0.037)
9.地域の行事に参加すること(お祭			-0.0199			-0.1250***			-0.0540*			-0.1332***			-0.0504*			-0.1202***
りや子ども会など)			(0.030)			(0.036)			(0.030)			(0.036)			(0.031)			(0.036)
13.授業中にグループで教えあった				0.0262		0.0269				-0.0032		0.0194				-0.0118		0.0094
り、グループで発表したりすること				(0.031)		(0.036)				(0.031)		(0.035)				(0.031)		(0.036)
14.学級崩壊の状態					-0.4600***	-0.469***					-0.4409***	-0.4472***					-0.4312***	-0.4349***
					(0.031)	(0.031)					(0.030)	(0.031)					(0.031)	(0.031)
1.暮らし向きはよかった(中学校)							0.1990***	0.2150***	0.2242***	0.2191***	0.1912***	0.1700***	0.1766***	0.1917***	0.1997***	0.1957***	0.1664***	0.1479***
							(0.025)	(0.025)	(0.025)	(0.025)	(0.024)	(0.024)	(0.025)	(0.025)	(0.025)	(0.025)	(0.024)	(0.025)
本人年収													-0.0000	-0.0000	-0.0000	-0.0000	-0.0000	-0.0001
													(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)
都道府県ダミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
職種ダミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
業種ダミー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Constant	-1.4832***	_	-0.9496***	-1 0549***	_	_		_	_	_	_	-1.1361***	_	_	_	-1 5377***	_	
- Constant	(0.176)	_	(0.174)	(0.175)	(0.168)	(0.188)					(0.191)			(0.195)	_	(0.195)	(0.194)	(0.207)
	(0.1.0)	(3.2.3)	(5.2)	(5.2.5)	(0.200)	(5,255)	(0.102)	(0.101)	(0.101)	(0.101)	(0.101)	(0.200)	(0.200)	(0.200)	(0.20.7)	(0.200)	(0.20.)	(0.207)
Observations	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	5,606	5,606	5,606	5,606	5,606	5,606
R-squared	0.052	0.046	0.045	0.045	0.081	0.906	0.062	0.058	0.059	0.058	0.090	0.098	0.062	0.058	0.058	0.058	0.089	0.096
Standard errors in parentheses																		
*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1																		